

2010年12月24日

ご参考資料

楽読
(ラクヨミ)

Vol.330

春先とは異なる欧州債務問題と株式市場

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

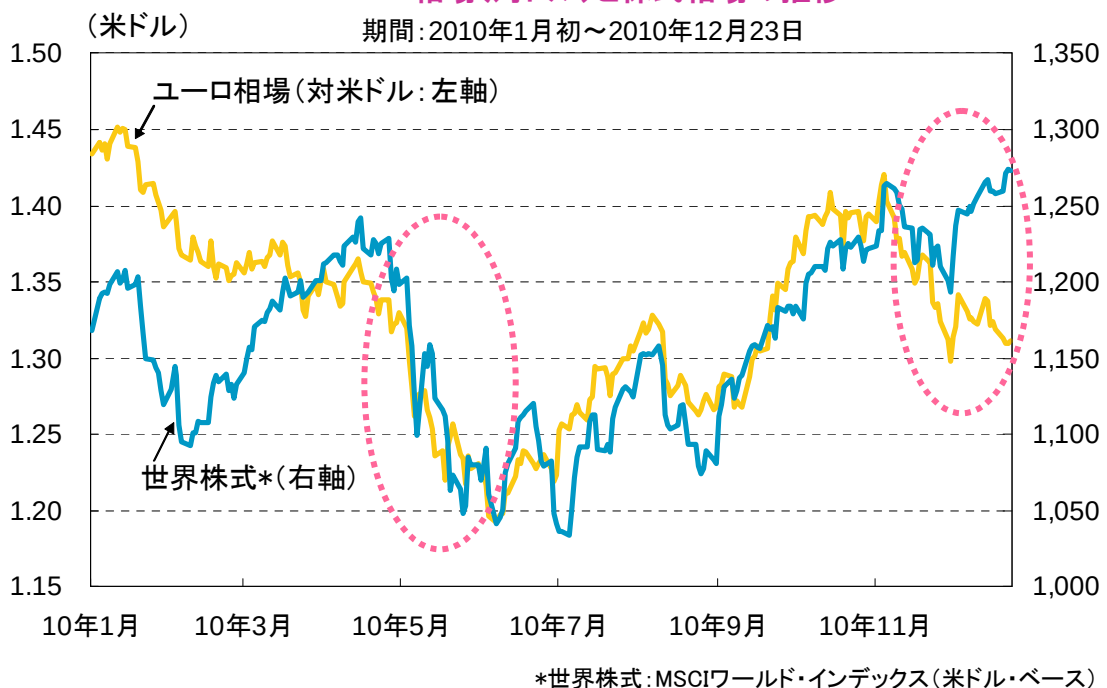
nikko am
fund academy

アイルランドの財政不安に端を発した秋口からの欧州債務問題は、同国に対するEU(欧州連合)・IMF(国際通貨基金)による金融支援決定後も収束せず、大手格付会社による相次ぐ欧州周縁国の格下げや格付見直し発表などもあり、足元でマーケットは同問題に対する不安感を再び高めているようです。

春先のギリシャ債務危機を巡っては、欧州周縁国の債券利回りの急騰やユーロの急落など、欧州における金融市場の混乱が、世界的な株安に波及しました。これに伴うリスク資産の大幅な下落を通して、欧米の実体景気を冷やす大きな要因になったことは、記憶に新しいことと思います。今回も、欧州の金融市場の混乱が長引くようなことになれば、春先と同様、実体景気の下押し要因となる可能性があり、今後の行方が注目されます。

一方、直近の株式市場の動きを見ると、春先のギリシャ危機の時とは異なる動きをしていることがわかります。ギリシャ危機の際には、投資家のリスク回避の動きからユーロが急落し、株式市場も大きく下落したのに対し、足元では、ユーロ相場への売り圧力は続いている一方で、株式市場はむしろ上昇しています。理由として考えられることは、企業業績やマクロ経済指標の改善に示されるように欧米景気が回復しつつあること、また、FRB(米連邦準備制度理事会)による大規模な量的緩和をはじめ、ECB(欧州中央銀行)や日銀など主要先進国の中央銀行が潤沢な資金供給を続けており、世界的に流動性の供給が拡大方向に向かっていることなどが、要因として挙げられるでしょう。こうした株式市場の不安材料に対する抵抗力からは、資産価格の下落によってもたらされる景気の下押しリスクが、春先と比べて小さくなっているように見受けられます。

ユーロ相場(対ドル)と株式相場の推移



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。